

急激に変化する時代の地域に貢献する作業療法

Susanne Iwarsson (スッサーン・イワルソン)

世界中の多くの国々では、従来から地域を基盤にした作業療法が十分に発達し、予防的家庭訪問、地域に根ざしたリハビリテーション、転倒防止、ライフスタイルの再設計、福祉機器の提供などの優れたプログラムを生み出している。実用に移される研究成果はますます増えており、作業療法実践の継続的な改善に役立っている。

21世紀の最初の10年間で、国際政治の観点から、地球温暖化、エネルギー供給の引き締め、水と食糧、高齢化社会、公衆衛生、世界的流行病、安全保障などの分野で数々の大きな課題が特定されてきた。これらの課題は持続可能な解決策へと転換されなければならない。問題は、この急激に変化する時代に作業療法が効果的に地域に貢献するには何が必要か、ということである。作業療法の実践が未来志向の発展を遂げていくよう支援するため、教育と研究には何が求められるだろうか？この基調講演では、高齢化に関する国際的・学際的な研究からの経験と成果を背景に現在の傾向と進展を説明し、作業療法を発展させていく上での機会と課題を概説する。